

物を投げる・人に手が出る

Q. 人に向かって物を投げたり、手が出たりすることがあり、困っています。

思い通りにならないと物を投げたり、人を叩いたりすることもあれば、機嫌は悪くないのに物を投げってしまうこともあります。周りの人を傷つけてしまわないか心配で、やめさせたいと思っていますが、理由が分からず困っています。どうしたらいいでしょうか。



A. 物を投げたり、人に手が出たりする理由は？

おもちゃや身近にあるものを人に向かって投げたり、お友達を叩いたり押してみたり…

幼い頃はありがちなことです。周りから乱暴な子どもだと思われてしまい、親としては早くやめさせたいと焦りますよね。でも、本人は相手を傷つけようと思って行動しているわけではなく、物を投げる、人に手が出る理由としてはいくつかあります。

●1～2歳ごろの子どもは成長する中で体を動かしながら学んでいます

「投げるとどんな音が鳴るのかな？」「どれくらい飛ぶかな」といった興味や好奇心を持って物を投げて楽しむことがあります。投げた後、周りの大人が反応する姿も単純におもしろいと感じることがあります。

●「怒り」「悲しみ」などの気持ちをコントロールする練習中です

子どもはストレスのかかる状況に置かれたとき、物を投げるなどの暴力的な行動をとることがあります。

●自分の気持ちやしてほしいことを言葉で伝えることはまだまだ難しいです

言葉の代わりに物を投げる、人を叩くなどの行動で気持ちや要求を伝えようとする場合があります。



●感覚に関する困りごとが影響している場合があります

感覚(聴覚、味覚、触覚、視覚など)のアンテナが高く、敏感で様々な情報を受け取りやすい子どもにとっては、苦手な感覚から自分を守ろうとする行動の1つであることもあります。

一方で様々な情報を受け取りにくく、感覚の受け取り方が鈍感な子どもは力加減が難しくなることがあり、本人は「ねえねえ」と軽く触ったつもりでも「バシバシ」と叩いてしまうことがあります。

このように背景は様々です。こどもの行動の背景を知り、子どもの困りに合わせた対応をすることで、このような行動が変化していくことが期待できます。

★ センターではこんなアドバイスをしています

背景や対応は人それぞれです。その子に合った方法を探してみましょう。

●安全に楽しめる遊びへとつなげてみましょう

遊びを通して物を投げている場合には、一緒に安全に楽しめる遊びへとつなげることで、「安全に遊ぶ方法」や「達成感を得る」ことができ、安心してその行動を続けることができます。

例えば 新聞紙を丸めて小さなボールを作り、的やかごに投げる遊び。

●本人が安全に過ごすことのできる刺激の少ない静かな場所で見守りましょう

気持ちを上手くコントロールすることが難しい状況にあると、本人もどのようにすればいいのかわからなくなっているため、本人が安全に過ごすことのできる刺激の少ない静かな場所で見守りましょう。

例えば 部屋のテレビや音楽を消して、部屋の隅っこに子どもを移動させ、本人のお気に入りのぬいぐるみや毛布などを近くに置き、本人の様子が確認できるあたりまで距離を置く。



●子どもの気持ちを周りの大人が代弁してあげましょう

言葉で伝えることが難しい場合には、子どもが「自分の気持ちはこういう言葉で伝えられるよ」と気付けるように子どもの気持ちを周りの大人が代弁してあげましょう。

また、大人と一緒に練習する中で、少しでも気持ちを伝えることができたときにはほめましょう。

例えば 子どもが落ち着いてきたら、本人の話を聞き、「〇〇したかったね」と気持ちを受け止めてみる。

●本人の感覚の受け取り方を知って、対応しましょう

感覚面に困りを抱えている場合には、本人の感覚の受け取り方によって対応は変わります。

〈感覚の受け取り方が敏感な子ども〉

苦手な感覚を我慢させようとしても我慢できるものではないため、不快だと感じる刺激を減らし、不安を軽減してあげることが必要です。

〈感覚の受け取り方が鈍感な子ども〉

感覚をしっかり満たしたうえで、力加減を調整していくことが大切です。遊びの中で力加減の調整が上手になってきたら、友達に実際に触れる時も「紙風船みたいに優しくね」と声をかけてみましょう。

例えば 全身に力が入る遊び…トランポリンや手押し相撲など。

力加減を調整する遊び…紙風船や泥団子など。



お子さんに合ったアドバイスを受けたいときには

新宮町子ども発達支援センターにお気軽にご相談ください。

相談先 〒811-0124

福岡県糟屋郡新宮町新宮東 2 丁目 5 番 1 号

新宮町こども発達支援センター（シーオーレ新宮内）

TEL(092-963-2995) 月～金 8:30-17:00